

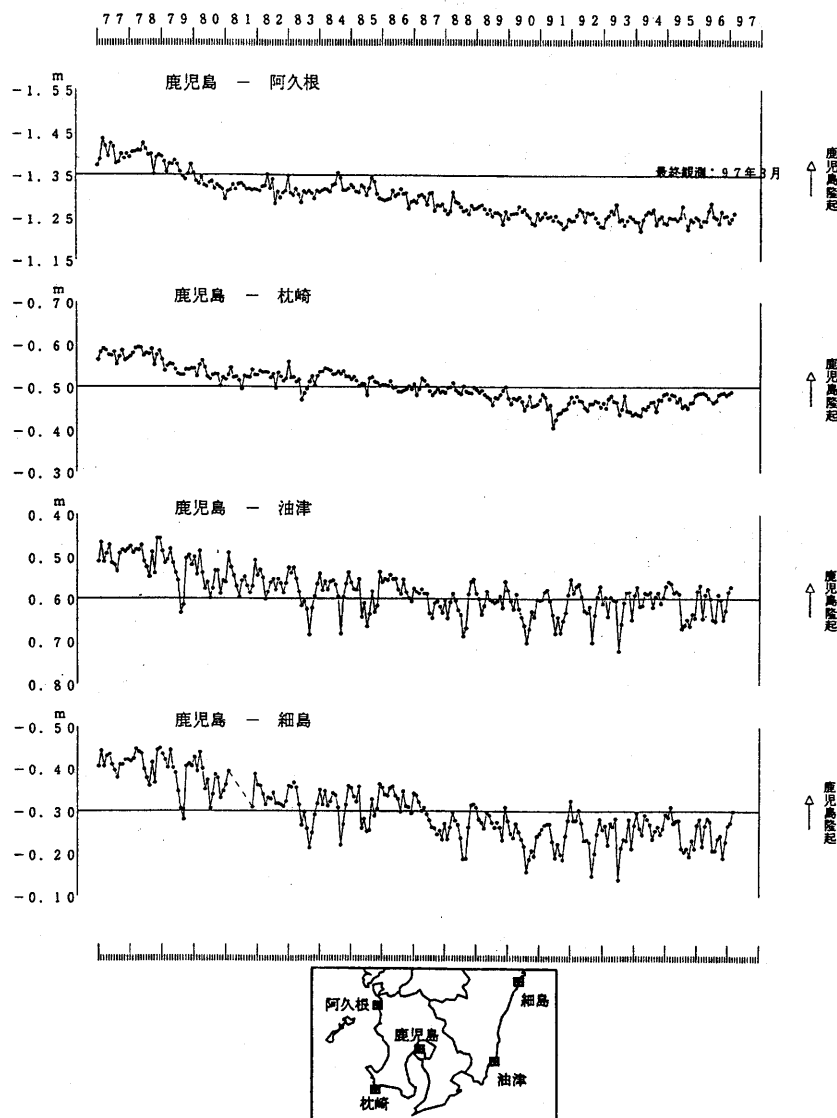
潮位観測による鹿児島島の上下変動*

Vertical Crustal Movement at Kagoshima with Tidal Observation

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1図は鹿児島島とその周辺の験潮場の月平均潮位の差である。1990年代の前半には鹿児島島の相対的な上下変動はみられなく、始良カルデラ下のマグマ溜まりの収支のバランスがとれていたものと思われる。しかしおよそ2年ほど前から鹿児島島は隆起に転じたように見える。桜島からの放出物の量が減ったのか、始良カルデラ下のマグマの供給量が増加したのか、このデータだけでは判断できない。これは桜島の噴火活動に直接関係する地殻変動なので、今後も注意深くみていく必要がある。



第1図 鹿児島島、阿久根、枕崎、油津、細島各験潮場間の月平均潮位差（海岸昇降検知センター「潮位年報」による）
 Fig. 1 Differences in monthly mean sea levels between Kagoshima, Akune, Makurazaki, Aburatsu and Hosojima tide stations.

*Received 15 Aug., 1997